

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 1日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520177

研究課題名（和文） 近世における検閲が文学作品のテキストや挿絵に与えた影響の研究

研究課題名（英文） A study of the influence of the Censorship in the early Modern Times on the

Literary work and Pictorial illustrations

研究代表者

佐藤 悟 (SATO SATORU)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：50178729

研究成果の概要（和文）：

19世紀の書籍にかかわる流通・出版の問題にどのように規制が関わったかを明確にすることを研究の目的とし、広範な調査を行った。その結果『絵本太閤記』の絶板に伴う色摺絵本の禁止が色摺絵本に及ぼした影響について広範に調査し、江戸出版界の動向を明らかにした。また検閲システムを明らかにし、いわゆる検閲の証印である改印についての研究を行った。さらに『正本写』の研究を行い、その出版に関わる年表を作成した。

研究成果の概要（英文）：

The result of this research clarifies about the regulation which circulation and publication of books in the 19th century received.

The domain of this research is as follows.

The coloring picture-book of the Edo period

The publisher of the Edo period

Aratame—in(The stamp of inspection)

Ehon-Taikouki

Shohon-utsushi

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：近世文学

キーワード：検閲 歌舞伎 合巻 地本問屋 吉原 筆禍史 絵本太閤記 絵本 正本写 山東京伝 柳亭種彦 修紫田舎源氏

1. 研究開始当初の背景

近世における検閲が文学に与えた影響に

についての研究は歴史学からのアプローチが多く、法制史研究の一環として行われてきた。

そのため御触書その他文献資料が残ったものについては優れた業績が多々残されているが、文献資料がないものについては研究が皆無と言ってよかった。

国文学研究の方法、それは書誌やその他の視点から作品解析を行い、検閲の影響を文学作品そのものから見出すことができることに気づき、それを発展させるべく本研究の申請を行った。

2. 研究の目的

研究目的は以下の通りである。

(1)『禁書目録』『絶焼録』『開版指針』等を詳細に検討することにより、享保・寛政・天保期における検閲のあり方を検討する。

(2)研究活動の一環として『筆禍史』の補訂をおこなう。それに際して、改印制度を全期間にわたって再検討する。

(3)実際の文学作品を検閲の視点から検討する。

享保期については軍書類における徳川家や諸大名に対する表現方法、また公許された遊郭以外の売春の取締りが文学作品に与えた影響を検証する。

寛政期については、地本問屋を中心とした自己規制のあり方、春画や売春の取締りが文学作品に与えた影響を検証する。

天保期以降に関しては、演劇への規制や風俗矯正の文学作品に及ぼした影響を合巻を中心に研究する。

幕末期は幕府の政策実現の一環としての出版が予想されるため、その検証を行う。

(4)絵本・浮世絵類の研究を通して検閲の実態を探る。

3. 研究の方法

(1)上記(1)に対応して、『開版指針』の翻刻・注釈を研究会形式で行う。完了したら『筆禍史』に移る。

(2)規制に伴う、出版システムの変化を検証する。改印制度と演劇関係の出版の関係の調査が主眼となる。

(3)国内外の図書館・美術館・個人コレクション等に所蔵され調査対象を精査する。

(4)天保期における紙価の変動と奢侈禁止令の関係を調査する。

(5)上記(4)に対応し、19世紀前半に江戸で刊行された絵本の調査を行い、規制との関係を明らかにする。

4. 研究成果

研究会により、『開版指針』はほぼ解読が完了した。この成果は国立国会図書館の白戸満喜子氏によって発表される予定である。

文化期の色摺規制に関わる問題は、享和期の絵本の調査を国内外で行い、合巻の絵本化という問題に関わることを発見した。『絵本太閤記』の絶板直後におきた江戸における多色摺絵本の絶板の原因を『絵本太閤記』五編の口絵と地図に多色摺が使用されていたことに求めた。この問題は従来、『割印帳』に『福鼠尻尾太棹』『敵討播州舞子浜』の二例の絶板記事が記されるのみで、あまり重要視されてこなかった。これは絶板となった二書が上方での流通を図るために書物問屋の割印を受けたことによりたまたま記録に残ったためであった。しかし文化元年には多くの色摺絵本が絶板となったことが明らかになり、文化期の流通の問題に関わる問題が浮上した。文化元年の『絵本太閤記』絶板にともなう色摺禁止令が合巻に与えた影響を考察するための予備的な研究として「山東京伝の文学と絵画—『糸車九尾狐』と『絵本玉藻譚』」を発表した。『絵本玉藻譚』は文化五年の残虐な絵組の禁止令にも関わる作品である。

需要が存在するのに絵本という商品の供給が規制により絶たれたため、多色摺絵本の代替物として草双紙の絵本化、すなわち合巻化が進展し、多くの地本問屋が草双紙に参入することとなった。そのため多くの新興の合巻板元は作者と画工の確保に苦勞することとなり、新しい作者、画工の誕生を見ることになった。これについては「文化前期の地本問屋と文化元年の彩色摺禁令」として報告した。

流通規制に関わる問題は天保改革における『修紫田舎源氏』の絶板が奢侈禁止令の一環であることを実証するために不可欠である合巻価格について考察を加え、「文政末・天保期の合巻流通と価格」という成果になった。これには地本問屋の流通システムの実態を明らかにするという成果も伴い、近世の検閲システムを支えた地本問屋の研究に寄与できたものと自負する。また天保改革後の地本問屋仲間再興との関連においても重要な研究といえる。それを補う研究として『傾城水滸伝』の衝撃」「『国字水滸伝』と七編下冊草稿について」を発表した。

草双紙や浮世絵研究に不可欠な名主や行事による改印については『浮世絵大事典』(東京堂出版、2008年6月)の「改印」の項を執筆した。これは改印の変遷

について、その理由等について考察を加えたもので、事典の項目ではあるが、検索システムの研究をする上で不可欠の資料である改印についての問題提起となっている。

演劇に関わる出版物に対する規制の問題に関しては『正本写年表』として、網羅的な書誌を発表した。これは演劇そのものに対する規制史を論ずる上でも重要な成果である。

吉原に関わる規制の研究は、慶応義塾大学の日比谷孟俊教授との共同研究により進展し、その成果は吉原の構造そのものにまで及んだ。「大岡越前守忠相と吉原一集娼政策への転換」は一般誌に掲載されたものであるが、幕府の集娼政策の前提となった岡場所の女性に対する奴という処分の前提となった西田屋九重の事例を調査することによって、罪を犯した人物を公然と刊行することが不可能であったことを示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7件)

1. 佐藤悟、「文化前期の地本問屋と文化元年の彩色摺禁令」、2010、『国語と国文学』(査読有) 平成22年3月号 pp.1-15
2. 佐藤悟、「『傾城水滸伝』の衝撃」、2010、『アジア遊学』131号(査読無・依頼原稿) 勉誠社 pp.205-210
3. 佐藤悟、「大岡越前守忠相と吉原一集娼政策への転換」、2010、『東京人』279(査読無・依頼原稿) pp.72-77
4. 佐藤悟、「『国字水滸伝』と七編下冊草稿について」、2009、『かがみ』第四十号(査読無・依頼原稿) pp.148-182
5. 佐藤悟、「山東京伝の文学と絵画—『糸車九尾狐』と『絵本玉藻譚』」、2008、『国文学 解釈と鑑賞』第73巻12号(査読無・依頼原稿) pp.104-111
6. 佐藤悟、「文政末・天保期の合巻流通と価格」、2008、『日本文学』第57巻10号(査読無・依頼原稿) pp.41-49
7. 佐藤悟、「『吉原むかし絵本』「さい」について」、2008、『アジア遊学』109号(査読無・依頼原稿) 勉誠社 pp.74-85

[学会発表] (計 2件)

学会発表

- ①佐藤悟、「『人物略画式』の画題」、国際シンポジウム：鋏形蕙斎の画本芸術 - 江戸からパリへ、2012年3月2日、日仏会館
- ②佐藤悟、「19世紀の出版統制と外国」、シンポジウム：日本を意識する時、2012年3月

9日、法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー
ドタワー

[図書] (計 5件)

1. 佐藤悟、国立劇場調査養成部、『正本写合巻年表』(端緒)、2011、1-189
2. 佐藤悟、八木書店、「奥村政信絵本に見る画題の変遷」、2010、『江戸の絵本 画像とテキストの綾なせる世界』(共著)、pp.163-171
3. 佐藤悟、溪水社『『昔笠博多小女郎手』—翻刻と影印—』、2009、『日本のことばと文化』(共著)、pp.278-293
4. 佐藤悟、竹林舎、「川上白の俳諧とその時代」、2009、楠元六男編『江戸文学からの架橋』(共著) pp.36-6
5. 佐藤悟、森話社、「柳亭種彦『修紫田舎源氏』と源氏絵」、2008、『源氏物語と江戸文化』(共著)、pp.163-171

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 悟 (SATO SATORU)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号：50178729

(2) 研究分担者 なし

()

研究者番号：

(3)連携研究者 なし
()

研究者番号：